



令和6年12月13日

つくば市

東日本高速道路株式会社関東支社

一般国道468号(**C4** 首都圏中央連絡自動車道)における スマートインターチェンジの開通見通しと名称決定について

茨城県つくば市とNEXCO東日本 関東支社(埼玉県さいたま市)が整備を進めてきた、一般国道468号(**C4** 首都圏中央連絡自動車道(以下「圏央道」)に接続するスマートインターチェンジ(以下「スマートIC」)について、現在の工事進捗を踏まえた開通見通しと名称を決定しましたのでお知らせいたします。

1. 開通見通し 令和7年春

2. スマートICの名称

決定名称

「つくば^{にし}スマートインターチェンジ」

3. スマートICの概要

- ・設置箇所 位置: 圏央道 常総IC～つくば中央ICの本線に接続
所在地: 茨城県つくば市島名
- ・運用時間 24時間利用可能
- ・利用形態 一旦停止型
- ・対象車種 ETC車載器を搭載した全車種

4. その他

- ・期待される整備効果については、「別紙」をご覧ください。

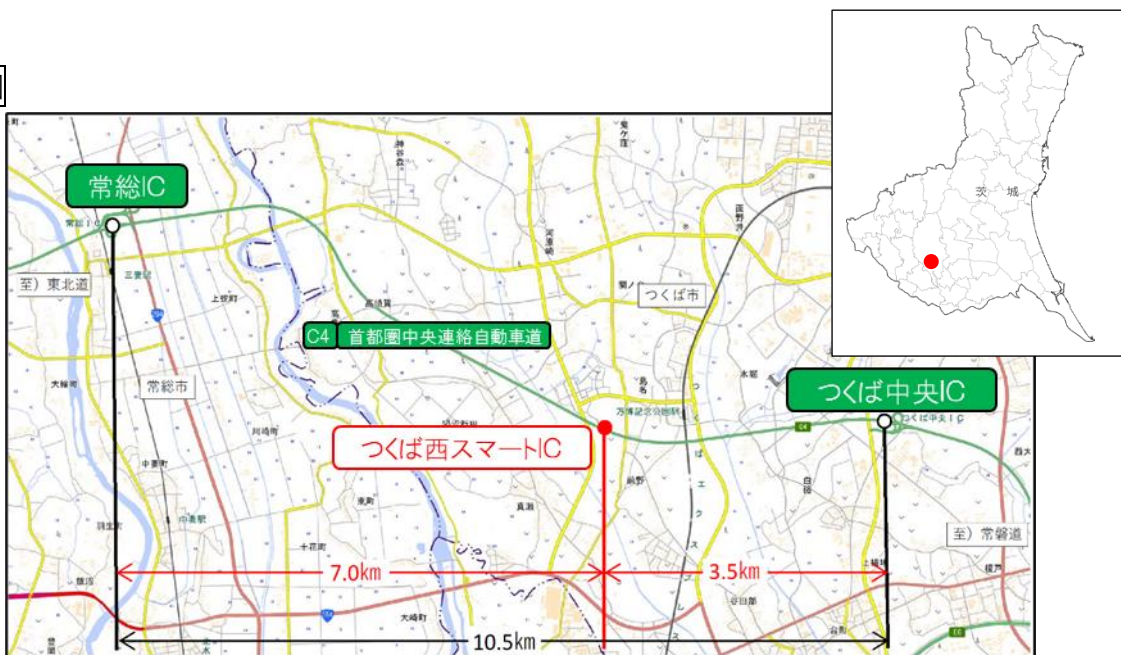
名称の考え方

当該スマートICの利用者に対しETC専用のスマートICであること、つくば市へ接続される出入口であることが明確に判断可能となるため、自治体名の「つくば市」を用い、市内には、既につくば中央ICがあることから明確に違いが判断できるよう自治体名の後に「西」を付した「つくば西スマートインターチェンジ」としました。

名称決定までの経緯

本名称は、つくば市などで構成する「(仮称)つくばスマートインターチェンジ地区協議会」で検討を行い、茨城県内の道路管理者等で組織する道路標識適正化委員会の意見を踏まえ決定された名称原案をもとに、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構による所定の手続きを経て決定されました。

位置図



地理院地図(国土地理院)(<https://maps.gsi.go.jp/>)をもとに、つくば市・東日本高速道路株が加工

現在の空撮状況



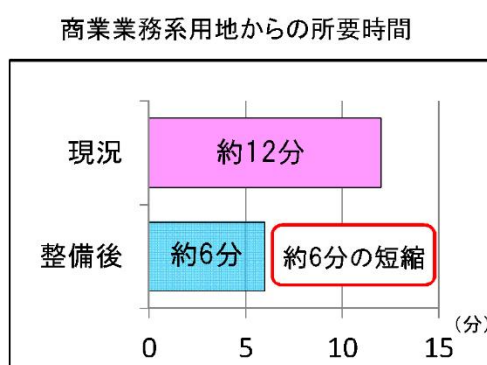
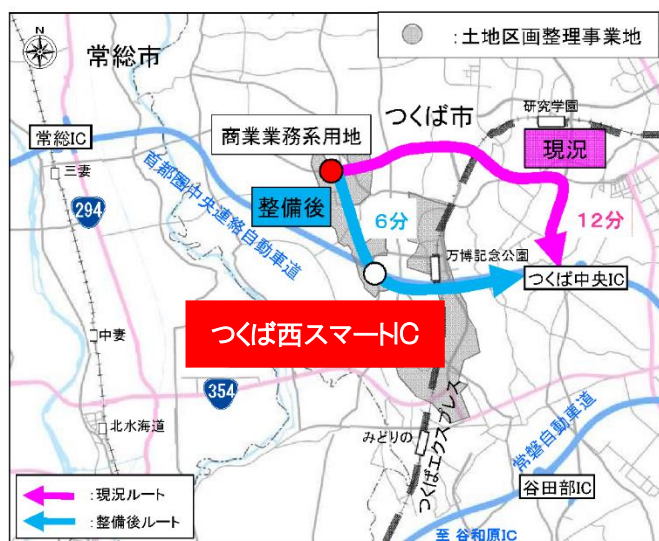
つくば西スマートICの整備により期待される効果

①地域の活性化

つくば西スマートICの整備により、つくばエクスプレスの沿線開発による土地区画整理事業地から圏央道へのアクセスが向上し、更なる企業や商業施設の誘致が進み、雇用の創出による地域の人口の更なる定着など本地域の活性化が期待されます。

【効果例】商業業務系用地からつくば中央ICへのアクセス時間の短縮

○整備前:約12分 → 整備後:約6分(約6分の短縮)



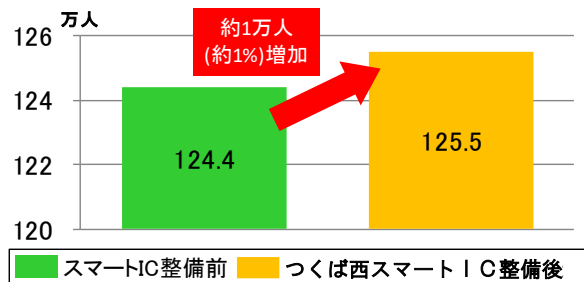
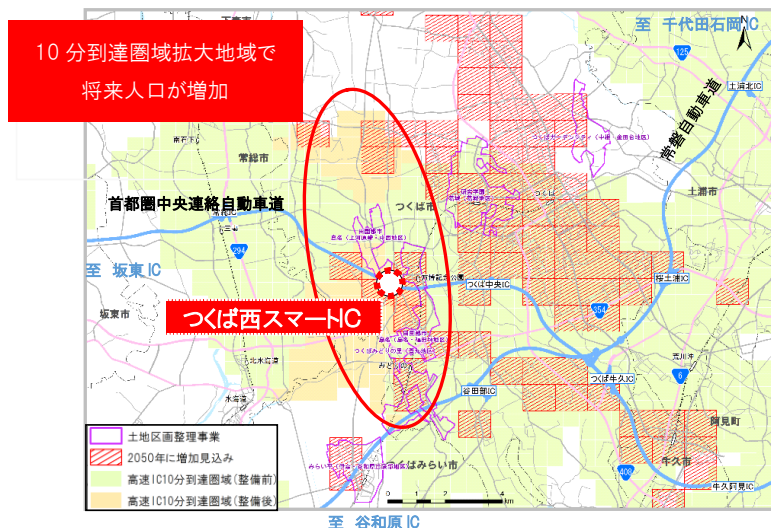
②利便性の向上

圏央道 常総IC～つくば中央IC間のIC間距離は約11kmあり、圏央道の中でも2番目に長い区間となっています。

つくば西スマートICの開通により、常総IC～つくば西スマートIC間が約7km、つくば西スマートIC～つくば中央IC間が約4kmとなります。これにより、各ICへの10分到達圏域は約1万人増加し、その10分到達圏域の拡大地域で将来人口の増加が見込まれるなど、つくば市西部地区などの利便性が向上します。

【茨城県の将来推計人口と高速IC 10分到達圏域】

【各ICへの10分到達圏域人口】

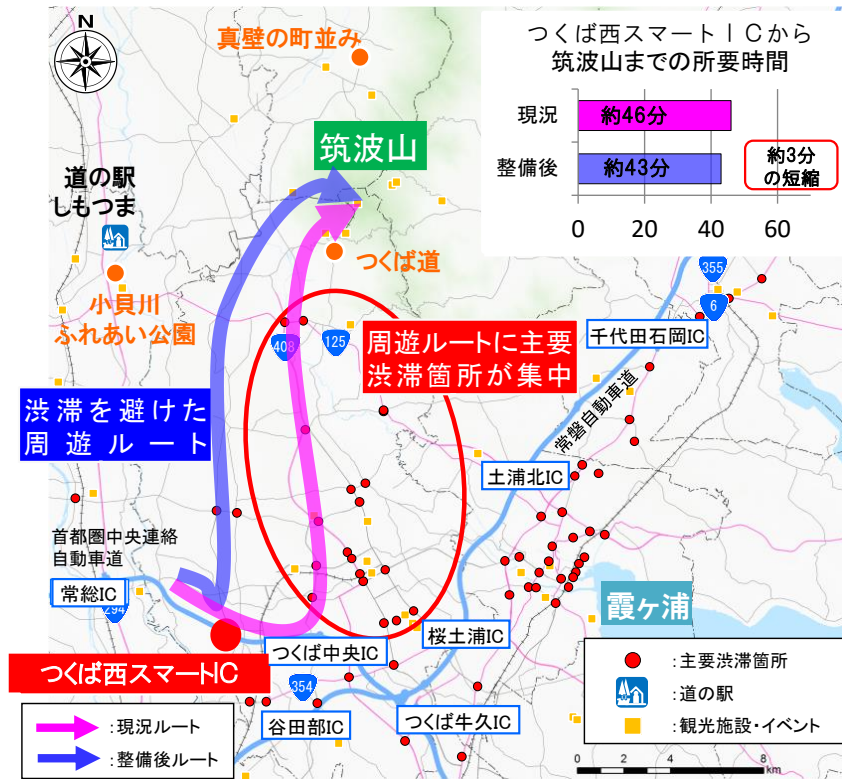


※茨城県内全ての高速ICへの10分到達圏域人口を算出

出典: 将来人口=国立社会保障・人口問題研究所(平成24年1月推計)
到達圏域=H27 道路交通センサス混雑時旅行速度を使用

③観光振興への寄与

つくば西スマートICの整備により、県外から筑波山周辺地域への来訪者に対し、渋滞を回避した周遊ルートが確立されることにより、観光地へのアクセス性が向上し観光振興に寄与します。



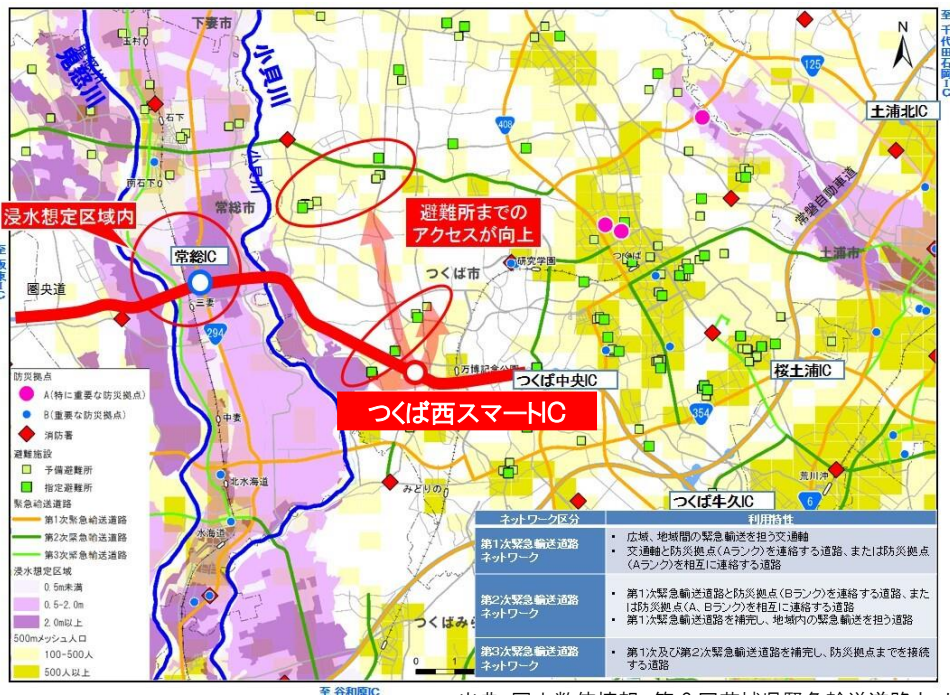
筑波山: 来訪者207万人/年
出典: つくば市

※所要時間=H27 道路交通センサ混雑時旅行速度を用いて算出

④災害時の信頼性の高いネットワークの形成

隣接する常総ICが鬼怒川および小貝川の浸水想定区域になっており、つくば西スマートICの整備により、災害が発生した際の救援活動や緊急物資輸送の迅速化が期待され、リダンダンシーを確保した信頼性の高いネットワークの形成に寄与します。

また、つくば西スマートIC周辺地域の指定避難所に対して、第1次緊急輸送路である圏央道へのアクセスが容易となることにより防災機能の強化に寄与します。



出典: 国土数値情報、第2回茨城県緊急輸送道路ネットワーク計画等策定協議会